

# 昔ながらの暮らしに 身を置いて

いながわ  
特派員報告



中橋 弥里

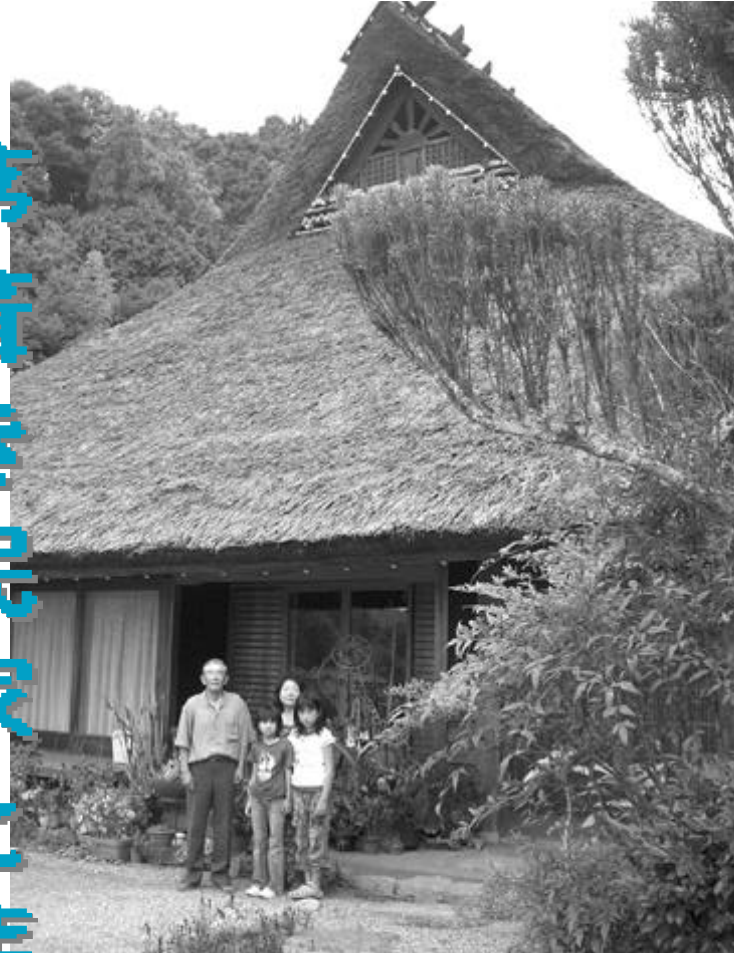


漢 悦子

時代の変化とともに、人々の生活は利便性を求め、機能性に優れた快適な暮らしに変わってきました。そのような中で昔ながらの生活を営んでいる光景を目にすると、ほっと心安らぐような懐かしさを感じることはありませんか。

今回は、猪名川町の四季折々を感じながら、昔ながらの生活様式で暮らしている茅葺き民家と薪風呂の家を紹介します。

## 茅葺き民家と薪風呂の家



手入れされ大切に受け継がれてきた森田さん宅の茅葺きの家

### 茅葺き屋根と井戸のある家



家の古い見取り図に興味津々

昔ながらの民家と言えば誰もが思い浮かべるような茅葺き屋根の家にお住まいの杉生の森田清司・寛子さん宅を訪ねました。

明治の始め頃に建てられたという茅葺きの母屋は、入母屋と呼ばれる様式で、隣接する白壁の蔵とともに、山の緑に映えて美しいたたずまいを見せています。

茅葺きの屋根は、昔はかまどの煙によって良好な乾燥状態に保たれていましたが、電気やガスを使う現代の台所では茅の湿気が抜けないため昔以上に傷みやすく、5年に1度は苔を取り部分的に茅を足すなどの補修をしても、約20年で葺き替えが必要になるそうです。材料の調達も次第に難しくなり、森田家では5年前に4面全ての屋根を葺き替えるために、近所の人達にも協力してもらいながら10年かけて茅を集めたそうです。葺き替え作業は、職人2人で3カ月かかりました。

清司さんは「情熱がなければ、茅葺きを維持していくのは難しいですが、愛着を持って大切に住んでいきたいです。井戸は庭木の水やりや野菜を洗うのに毎日活用しています。近代的な住まいにしてしまうことは簡単ですが、昔ながらの文化や伝統を引き継いでいきたいですね」と遊びに来ていたお孫さん達と一緒に墨で書かれた建築当時の古い見取り図を見ながら、笑顔で話されました。



現役で活躍中の井戸

### 貴重な茅葺き民家

猪名川町には、見る人に懐かしさを感じさせる暖かな雰囲気と、伝統ある気品と強さをあわせもつ茅葺き民家がまだ数軒残っています。

茅葺きとは、ススキ・アシ・チガヤなどの植物を材料に使った日本家屋の屋根の葺き方の一つで、太平洋戦争以前は、日本各地で見ることができました。現代では生活様式が変わってきたため、茅葺き民家は減り、伝統的な建築技術を受け継ぐ職人が減ってきたことや、茅が手に入りにくくなったことで、葺き替えには膨大な費用がかかるようになりまし。

### 暮らしとともに変わってきた家庭風呂

ふるさと館には、実際に町

内の民家で使われていた木製の風呂が展示されています。江戸時代に生まれた「鉄砲風呂」と呼ばれるもので、人

ひとりが入れるくらいのお風呂の大きさを木桶の内側に通気口のついた鉄製の筒を立て、その中に燃えている薪を入れて湯を

沸かしていたそうです。主に関東で普及した家庭風呂の原型とも言えるもので、関西では桶の底に平釜をつけて薪を燃やし、木製の底板を沈めて入る五右衛門風呂が一般的だったようです。

町内では、比較的早くから各家庭に風呂の設備があったり

### 身体も心も温めてくれる薪風呂の家



庭の一角にある焚き口

町内には、薪でお風呂を沸かしている家がまだまだあります。取材をさせていただいたお宅では、夏はソーラー、秋から春にかけては薪でお風呂を沸かしています。

このお宅のご主人は「定年退職後に家での生活の中で毎日責任を持って何か仕事をしたい」という思いから、薪風呂に関することはすべて引き受けています。家の庭の剪定枝を集めたり、知り合いの大工さんやご近所に声をかけ薪を譲ってもらい、薪を斧で適切なサイズに割り薪小屋に綺麗に整理して数カ月乾燥させてから使います。冬になると焚き口での薪くべは大変寒く、厳しい作業になります。日の出ている夕方4時頃には薪をくべ始めると、湯はおよそ30分で焚きあがります。ご主人は、家族のためにほどよい湯加減にしておくそうです。

奥さんは「薪で沸かしたお風呂は体の芯まで温めてくれ湯冷めしませんよ。薪風呂は沸かすのに手間がかかり大変ですが、これからもお風呂は薪で沸かし続けたいと思っています。毎日お風呂を焚いてくれる主人には大変感謝しています。薪が燃えた後の灰は、山菜料理のあく抜きや、畑にまく肥料として利用しています」と笑顔で話されました。

ご主人の焚く薪風呂は、家族の身体も心も温めているようでした。



きれいに並べられた薪

### 後記集

ニータウンに住む私達にとっては、郷愁を誘う茅葺き屋根や薪のお風呂ですが、そこに住んでいる人の「暮らしや住まいの文化を大切にしたい」という思いが、あつてこそ今日まで引き継がれてきたものなのだと思えました。

茅や薪といった自然の素材を暮らしに生かした先人達の知恵に感心すると同時に、便利で楽なことに流されがちな今日、自然や環境と調和しながら毎日を丁寧に暮らすことの大切さを見直してみたいと思いました。

【いながわ特派員】